

古今和歌集「仮名序」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

やまとうたは人の心を種として
 よろづの言の葉とぞなれりける
 世の中にある人ことわざ繁きものなれば
 心に思ふことを
 見るもの聞くものにつけて言ひ出せるなり
 花に鳴く鶯水にすむ蛙の声を聞けば
 生きとし生けるもの
 いづれか歌をよまざりける
 力をも入れずして天地を動かし
 目に見えぬ鬼神をも
 あはれと思はせ
 男女のなかをも和らげ
 猛き武士の心をも慰むるは歌なり

問1 この文章の題名を漢字8字で答えなさい。

問2 この文章を書いたとされる人物の名前を漢字で答えなさい。

問3 この文章が収録されている和歌集の成立した時代を答えなさい。



問4 この文章について説明している次の文章の（ ア ）～（ ウ ）に当てはまる言葉をそれぞれ漢字2字で答えなさい。

この文章は、古今和歌集の（ ア ）で書かれた（ イ ）であり、和歌の本質を（ ウ ）にたとえて説いている。

【ア】

【イ】

【ウ】

問5 赤線ア「やまとうた」とは何か、本文の中の漢字を使って2文字で答えなさい。

問6 赤線イ「ことわざ繁きものなれば」の口語訳を次の中から選び○で囲みなさい。

ア：たくさん言葉を発するので

イ：さまざまな出来事に関わっているので

ウ：いろいろな罪を背負っているので

エ：数多くの苦労を経験しているので

問7 「やまとうた」とは具体的にどういうものか、教科書に載っている現代語訳の言葉を使って「～もの」と続くように答えなさい。

問8 「河鹿」とは何か、次の中から選び○で囲みなさい。

ア：蛙

イ：川魚

ウ：鹿

エ：虫



問 9 赤線ウ「生きとし生けるもの、いずれか歌をよまざりける」の意味として最も適切なものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：生きているもので、歌を詠まないものはない
- イ：生きているものならば、歌を詠むべきである
- ウ：生きているものは、いずれ歌を詠むことになる
- エ：生きているものの中には、歌を詠まないものもある

問 10 赤線エ「あはれ」の意味を次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：ものがなしい
- イ：かわいそう
- ウ：みすばらしい
- エ：しみじみとしている

問 11 「やまとうた」のもつ力を4つ、口語訳の言葉を使って「～力」と続くように答えなさい。

- ①
- ②
- ③
- ④

問 12 四角カ～ケを、現代仮名遣いに直してひらがなで書きなさい。

【カ】

【キ】

【ク】

【ケ】



問 1 3 この文章で使われている次の言葉の漢字の読みを、現代仮名遣いのひらがなで答えなさい。

ア：繁きもの

イ：鶯

ウ：天地

エ：鬼神

オ：武士

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

【オ】



古今和歌集「仮名序」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 古今和歌集仮名序

問2 紀貫之

【解説】紀貫之（きのつらゆき）は平安時代の貴族・歌人。

問3 平安時代

問4 【ア】仮名

【イ】序文

【ウ】植物

問5 和歌

【解説】本文に使われている「歌」という漢字と「男女のなかをも和らげ」の「和」という漢字で「和歌」となる。

問6 イ

問7 （例）人の心を種として、さまざまな葉になった（もの）

【解説】現代語訳の「やまとうたは、人の心を種として、（そこから芽生えて）種々さまざまな葉になったものだ。」の言葉を使って答えると良い。

問8 ア

【解説】「河鹿」とは、カジカガエルという蛙の一種。古文などで「かはづ」と呼ばれるのはこの蛙のこと。

問9 ア



問 | 0 エ

問 | 1 ①力ひとつ入れずに天地の神々の心を動かす力
 ②目に見えないもろもろの精霊たちをしみじみとさせる力
 ③男女の仲を親しいものとする力
 ④勇猛な武人の心をも和らげる力
 ※順不同

問 | 2 【カ】 よろず
 【ク】 いいだせる

【キ】 ころにおもうこと
 【ケ】 あわれとおもわせ

問 | 3 【ア】 しげきもの
 【ウ】 あめつち
 【オ】 もののふ

【イ】 うぐいす
 【エ】 おにがみ

